



白樺文学館企画展 山下清を見出した式場隆三郎を紹介
「式場隆三郎展 一見えない世界の美しさに心をよせて」

1920年、式場隆三郎は雑誌『白樺』に影響を受け、柳宗悦を訪ねて我孫子にやってきました。精神科医、民藝運動の推進者として活躍し、ゴッホの研究や山下清を広く紹介した人物です。本展では、医療、文学、美術などジャンルを超え多彩な活動を展開した式場の業績を紹介します。

日 時：前期 7月15日（土）～10月9日（祝）午前9時30分～午後4時30分（入館4時まで）※内覧会…7月14日（金）午後2時～

後期 10月17日（火）～令和6年1月14日（日）午前9時30分～午後4時30分（入館4時まで）※内覧会…10月16日（月）午後2時～

休館日：月曜日（祝日の場合翌平日）

場 所：白樺文学館

入館料：300円（高校・大学生200円、中学生以下無料）

主 催：我孫子市、我孫子市教育委員会、社会福祉法人日本点字図書館、医療法人式場病院

●式場隆三郎（1898－1965）

新潟県中蒲原郡五泉町（現・五泉市）に生まれる。新潟医学専門学校（現・新潟大学医学部）在学中に雑誌『白樺』を愛読し、柳や白樺派の人々の知遇を得る。昭和11（1936）年千葉県市川市に移り住み、国府台病院（現・式場病院）を設立。昭和14（1939）年以降、民藝運動に本腰を入れ八面六臂の活動を展開した。昭和34（1959）年に、日本点字図書館創立者の本間一夫（1915－2003）との縁により同館後援会長に就任。日本が世界に発信した「共用品・共用サービス」の誕生へと繋がった同館の「用具部事業」の道を切り拓くなど、視覚障害者福祉の向上に尽力した。

【問い合わせ】

我孫子市教育委員会

生涯学習部文化・スポーツ課

担当 稲村

☎04-7185-1583

式場先生く!

しぎば



陶器の絵付けを行う山下清 (1922-1971) と見守る式場

見えない世界の
美しさに
心をよせて



ゴッホと山下清を日本中に知らしめた
精神科医・文筆家・実業家の式場隆三郎。
彼は我孫子で出会った柳宗悦が率いた民藝運動から
多大な影響を受け、多彩な仕事を通して愛情豊かな
自立と共生の社会建設に邁進しました。

式場隆三郎展

会場

我孫子市白樺文学館

千葉県我孫子市緑2丁目11番8号 ☎04-7185-2192

入場料

大人 300円、高・大生 200円、中学生以下無料
3館共通券(鳥の博物館、杉村楚人冠記念館) 大人 500円、高・大生 400円

開館時間: 9時30分~16時30分 (入館は16時まで)

休館日: 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し、直後の平日が休館) 展示替期間中(10/11~15)、年末年始(12/29~1/3)

前期 2023年 7/15(土)~10/9(月・祝) 後期 10/17(火)~2024年 1/14(日)

主催: 我孫子市、我孫子市教育委員会、社会福祉法人日本点字図書館、医療法人式場病院 後援: 公益財団法人日本民藝館、日本民藝協会

前期

式場隆三郎『民藝と生活』(私家版)
芹沢銚介装幀 1944年



ゴッホ『向日葵』(ドイツ複製装画)
原画:1889年



吉川保正
漆絵皿『サント・マリー・ド・ラ・メール
の海岸の小舟』1955年

式場にとって民藝運動とは何かをひもとき、
民藝に囲まれた式場の生活から育まれた
多彩な仕事の本質に迫ります。



民藝運動から
ニ笑亭、山下清、ゴッホ
― 広がる社会への愛 ―



見えない世界の
心をよせて
美しいさに

式場にとっての「はじまりの地」
我孫子で開催する本展が、式場が願った
”ソーシャル・インクルージョン”の普及、
アクセシビリティの向上ならびに
”点字文化”普及の機会になれば幸いです。

後期



盲人福祉への情熱

日本から世界に発信した「共用品の源流となった
日本点字図書館用具部設立の道を拓いた
式場の後援活動について紹介します。



式場隆三郎『点字訳
ヴァン・ゴッホの生涯と芸術』日本点字図
書館点訳 1954年



日本点字図書館創立者・
本間一夫(1915-2003)
”式場先生は抱擁力ゆた
かな、誠に慕わしい方
だった”



糸通し



回転おろし



パン切り台

式場の支援により
同館が諸外国で収集した
盲人福祉用具
(用具部を充実させた
重要な”つぼみ”)

式場隆三郎展

式場隆三郎(1898-1965)

新潟県中蒲原郡五泉町(現・五泉市)に生まれる。新潟医学専門学校(現・新潟大学医学部)在学中に雑誌『白樺』を愛読し、柳や白樺派の人々の知遇を得る。昭和11年(1936)千葉県市川市に移り住み、国府台病院(現・式場病院)を設立。昭和14年(1939)以降、我孫子に原点をもつ健康な美が宿る日用品を通して社会改革を目指す民藝運動に本腰を入れ、八面精力的な活動を展開した。昭和34年(1959)に、日本点字図書館創立者の本間一夫との縁により後援会の会長に就任。とくに用具事業への道を拓くなど盲人福祉の向上に尽力し、同館発展の素地をつくった。

トークイベント 稲村雑談

②10月29日(日)開場13時30分、開演14時
「式場隆三郎について
―白樺・民藝・医療・福祉―」
講師：山田 真理子(式場病院)
伊藤 宣真(日本点字図書館)
稲村 隆(我孫子市白樺文学館)

トークの後、盲人福祉用具を紹介する
ワークショップを開催します。

講演会

①9月30日(土)開場13時30分、開演14時
「式場隆三郎先生がご支援くださった
日本点字図書館とは
―その成長の歩みと今―」
講師：長岡 英司(日本点字図書館理事)

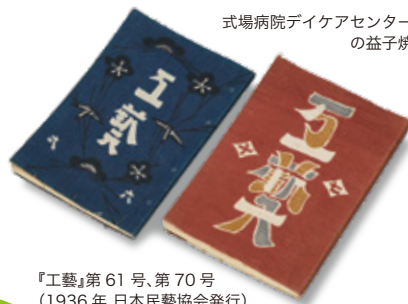


関連イベント

お知らせ



式場病院デイケアセンター
の益子焼



『工藝』第61号、第70号
(1936年日本民藝協会発行)



1階に
「触れる展示
コーナー」設置

どなたでも椅子に座って、点字図書や民藝品
工芸品としてつくられた日本民藝協会発行の
雑誌『工藝』などを触って鑑賞していただけます。

- 応募方法：白樺文学館(04-7185-2192)へ
- 募集開始：①7月4日(火)9時30分、②10月3日(火)9時30分
- 定員：いずれも100名
- 会場：生涯学習センター アビスタ(我孫子市若松26-4)1階ホール

